

**アドイン GS1-128 日付検査
for アシパック Pro BHT-1500 Ver1.0
取扱説明書 第1版**



2016年 3月 10日
コンピュータ・アシスト株式会社



目次

1	プログラム動作環境	1
2	プログラムのインストール	1
2-1	プログラムダウンロード.....	1
2-2	動作設定.....	3
2-3	業務設定更新.....	17
3	プログラム実行	18
4	保存データ送信	20

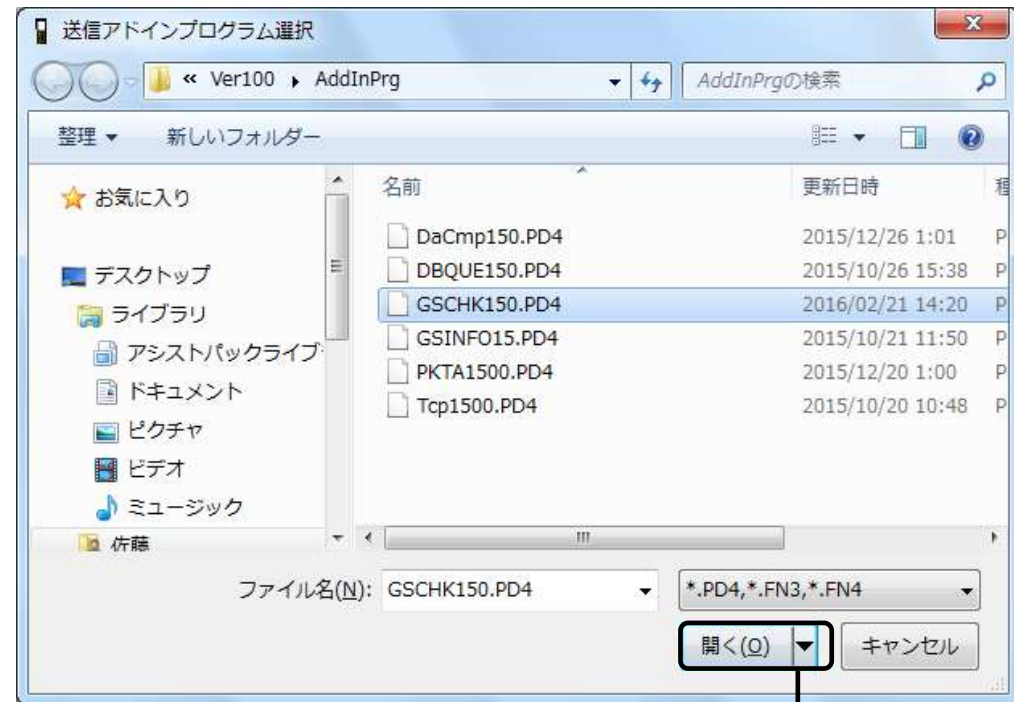
1 プログラム動作環境

アシストパック Pro BHT-1500 のアドイン業務プログラムとして動作します。

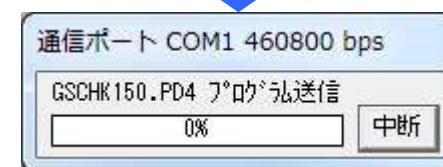
2 プログラムのインストール

2-1 プログラムダウンロード

アドインGS1-128日付検査プログラム「GSCHK150.PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



GSCHK150.PD4 を
選択してクリック



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行



ファイル受信
通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth
3. #####. PD4
4. \$\$\$\$\$\$. PD4

M1 戻る **M2** 選択



ファイル受信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

GSCHK150.PD4 送信中

41%

中断



プログラム転送

正常終了

OK

2-2 動作設定

業務設定において、動作モードに「アドイン業務プログラム」を選択し、プログラム名に「GSCHK150.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Business Settings' window for '医薬品有効期限検査サンプル.bnf'. The window has a menu bar with options like '新規作成', '開く', '保存', '送信', etc. Below the menu bar, there are tabs for '設定画面選択', '基本設定', and '動作設定'. The '動作設定' tab is active. On the left, there is a '業務メニュー' (Business Menu) with '有効期限検査' (Expiry Date Check) selected. In the center, there are two input fields: '業務名' (Business Name) with the value '有効期限検査' and '動作モード' (Action Mode) with a dropdown menu showing 'アドイン業務プログラム'. To the right of these fields, there is a text box for 'プログラム名' (Program Name) with the value 'GSCHK150.PD4'. Below the program name, there is a button labeled 'アドインプログラム設定' (Add-in Program Setting). Annotations with arrows point to these elements: 'これをハンディターミナルの「業務メニュー」に表示します。' (Display this in the 'Business Menu' of the handheld terminal.) points to the '有効期限検査' menu item; '「アドイン業務プログラム」を選択' (Select 'Add-in Business Program') points to the dropdown menu; 'GSCHK150.PD4を入力' (Enter GSCHK150.PD4) points to the program name text box; and 'このボタンをクリックしてください' (Click this button) points to the 'アドインプログラム設定' button.

業務設定(医薬品有効期限検査サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信 端末以外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

有効期限検査

業務名 有効期限検査 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム プログラム名 GSCHK150.PD4

アドインプログラム設定

BHT-1500画面

有効期限検査

設定する
アドイン業務プログラム
の画面表示に
なります。

これをハンディターミナルの
「業務メニュー」に表示します。

「アドイン業務プログラム」を選択

GSCHK150.PD4を入力

このボタンをクリックしてください

(1) データ区分

データ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」を設定します。

マスターファイルにデータが登録されていないとエラーになります。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字 (0 詰め表示), 数字 (0 9 だけ表示), 日付 (YYYY/MM/DD), 日付 (YY/MM/DD), 日付 (MM/DD), 時刻 (HH:MM) から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字 (0 詰め表示), 数字 (0 9 だけ表示) のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
バーコード	「バーコード 使用」をチェックして、「バーコード 読取設定」ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルとを設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

・データ区分におけるバーコード読取設定

担当者 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ ユーザー定義

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータ外に含めない

データフォーマット 固定長

☐ データチェックを使用する

バーコードデータ

選択データ 1 桁目から 10 桁

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

「1桁目から10桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から10桁」がデータ区分のデータになります。

「99桁目から10桁」と設定した場合は、
「末尾から10桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使います。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除してデータ区分の項目データにします。3文字まで指定できます。



○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
STF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
NW7	チェックデジット(モジュラス16)の設定可能
Code39	チェックデジット(モジュラス43)の設定可能 数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクспанデッド, エクспанデッドスタック
ユーザー定義	ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, , <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。

○バーコードのユーザー定義

読取バーコードのユーザー定義は、ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

<第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, , <第16読み取りコード>

■■■■■■■■■■【読取バーコードのユーザー定義設定】■■■■■■■■■■

BHT-BASICプログラミングマニュアル(BHT-1500シリーズ用)より

■ 読み取りコード(BHT-1500B)

読み取りコードには、共通商品コード(JAN, EAN, UPC), インターリーブド2of5(ITF), Codabar(NW7), Code39, Code93, Code128, スタンダード2of5(STF), RSS があります。

□ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13), UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字 (国フラグ) であり、0~9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式: I [:[最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2~99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Codabar (NW7)

書式: N [:[最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2~99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、



スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式： M [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ スタンダード 2 of 5 (S T F)

書式: H [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式: R [コード: [最小桁数 [-最大桁数]]] [Stacked]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	GS1 DataBar コードタイプ
S	GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Truncated, Stacked, GS1 DataBar Stacked Omnidirectional)
L	GS1 DataBar Limited
E	GS1 DataBar Expanded

コードを省略すると、上のGS1 DataBar コードののどれでも読むことができます。

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。1～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数は、コード指定がEの場合に有効です。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、1桁からバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

Stackedは、Stackedタイプの読み取り指定です。Sを指定すると、Stackedタイプの読み取りも可能となります。Stackedは、コードとしてEとSの場合に有効です。

GS1 DataBar ExpandedとGS1 DataBar Expanded Stackedについて、FNC1キャラクタは、GSキャラクタ(1Dh)に変換しバーコードバッファに転送されます。



(2) 検査条件

日付検査の検査条件を設定します。

有効期限検査 設定 (BHT-1500)

データ区分
→ **検査条件**
→ データ保存
→ キャンセル
→ 確定

読取バーコード
☒ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar
☐ ユーザー定義

検査対象アプリケーション識別子 (AI) 17

比較日付 日付設定
 設定日付 10 年 5 月 1 日

検査OK条件 読取日付 = 比較日付

OK表示時間 30 1/10秒 NG表示時間 30 1/10秒
 OKブザー設定 NGブザー設定

OK 表示, NG 表示の時間と
OK ブザー, NG ブザーの鳴動
を設定します。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。 読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
検査対象 AI コード	アプリケーション識別子を 11～19の中から選択します。読み取ったバーコードデータに設定したアプリケーション識別子がない場合は、「設定アプリケーション識別子がありません」を表示します。
比較日付	「システム日付」または「設定日付」を選択します。「システム日付」を選択した場合は、HTに設定したシステム日付を使用して検査します。「設定日付」を選択した場合は、設定日付が入力可能になりますので設定してください。
設定日付	比較日付を年月日で設定します。日に00を設定すると、読み取った日付の日を無視して年月で検査します。読み取った日付の日が00の場合も同様に日を無視して年月で検査します。
検査OK条件	「読取日付<比較日付」, 「読取日付≤比較日付」, 「読取日付=比較日付」, 「読取日付≥比較日付」, 「読取日付>比較日付」から選択します。

○ 読取バーコード

バーコード	備考
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクспанデッド, エクспанデッドスタック
ユーザー定義	ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>,, <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。

○ 日付データのAIコード

分類		AI	備考
年月日	製造年月日	1 1	製造年月日 (YYMMDD)
	支払期限日	1 2	支払期限日 (YYMMDD)
	包装年月日	1 3	包装年月日 (YYMMDD)
	未定義	1 4	
	販売期限日	1 5	販売期限日 (YYMMDD)
	未定義	1 6	
	保証期限日	1 7	保証期限日 (賞味期限, 使用期限, 有効期限など) (YYMMDD)
	未定義	1 8	
	未定義	1 9	

□ 読取日付または比較日付の日が00の場合は、日を無視して年月で検査します。

● 検査例

読取日付	検査方法	検査日付	結果表示
160110	読取日付 > 比較日付	160101	OK
160100	読取日付 > 比較日付	160101	NG
160100	読取日付 ≥ 比較日付	160101	OK
160110	読取日付 > 比較日付	160100	NG
160110	読取日付 ≥ 比較日付	160100	OK

● OK/NGブザー設定

OK表示時間 1/10秒 NG表示時間 1/10秒

OK/MGを表示する時間を、1/10秒単位で0～99の数値を設定します。
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定

周波数 Hz 鳴動回数 回

鳴動時間 1/10秒 休止時間 1/10秒

動作デバイス

周波数，鳴動回数，鳴動時間，休止時間
を使用してブザー，バイブレータを動作
させます。

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0 を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10 秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10 秒単位で設定
動作デバイス	ブザー, バイブレータ, ブザー+バイブレータから選択

(3) データ保存

検査結果を保存して送信する場合は、「検査結果を保存する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ保存」を使用

保存するデータのAIコードを設定します。

保存するデータの桁数を設定します。(HtNoと検査数のみ)

保存するデータの桁数を表示します。(設定変更不可)

フィールド番号	フィールド名	指定AIコード	桁数
1	HtNo		4 桁
2	指定AIコードのデータ	AI01	14 桁
3	読取日付		6 桁
4	比較日付		6 桁
5	OK/NG		2 桁
6	検査数		4 桁
7	日付A(YYYY/MM/DD)		10 桁
8	時刻A(HH:MM:SS)		8 桁

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字1～8文字>、<拡張子(大文字半角英数字1～3文字)> (拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大16フィールドまで設定します。
保存条件	検査OK, 検査NG, 検査OK/NG から選択します。 検査OK: 検査OKになった場合にデータを保存 検査NG: 検査NGになった場合にデータを保存(エラー表示した場合はデータ保存しません) 検査OK/NG: 検査OKと検査NGの場合にデータを保存

■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o, データ区分, 指定A Iコードのデータ, 読取日付, 比較日付, O K / N G, 検査数, 日付, 時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
H t N o	アシストパックのサブメニューにおける3. HtNo 設定で設定した数値。
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
指定A Iコードのデータ	読み取ったバーコードデータから指定A Iコードのデータを抽出して保存します。
読取日付	読み取ったバーコードデータから抽出した日付
比較日付	設定日付またはシステム日付
O K / N G	検査結果 “OK” or “NG”
検査数	日付と時刻以外が同じデータの検査数を保存します。
日付 A (YYYY/MM/DD)	タイムスタンプでYYYY/MM/DD (10桁) を保存します。
日付 B (YYYYMM/DD)	タイムスタンプでYYYYMMDD (8桁) を保存します。
日付 C (YY/MM/DD)	タイムスタンプでYY/MM/DD (8桁) を保存します。
日付 D (YYMMDD)	タイムスタンプでYYMMDD (6桁) を保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	タイムスタンプでHH:MM:SS (8桁) を保存します。
時刻 B (HHMMSS)	タイムスタンプでHHMMSS (6桁) を保存します。
時刻 C (HH:MM)	タイムスタンプでHH:MM (5桁) を保存します。
時刻 D (HHMM)	タイムスタンプでHHMM (4桁) を保存します。

● 指定A Iコードのデータ設定

「指定A Iコードのデータ」を選択して、「A Iコード」を入力すると保存データ桁数を表示します。

● H t N o, 検査数の場合、保存データ桁数を1～8の範囲で設定します。

(4) 設定更新

[更新] をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

有効期限検査 設定 (BHT-1500)

データ区分
検査条件
データ保存
キャンセル

ここをクリック → 確定

☒ 検査結果を保存する

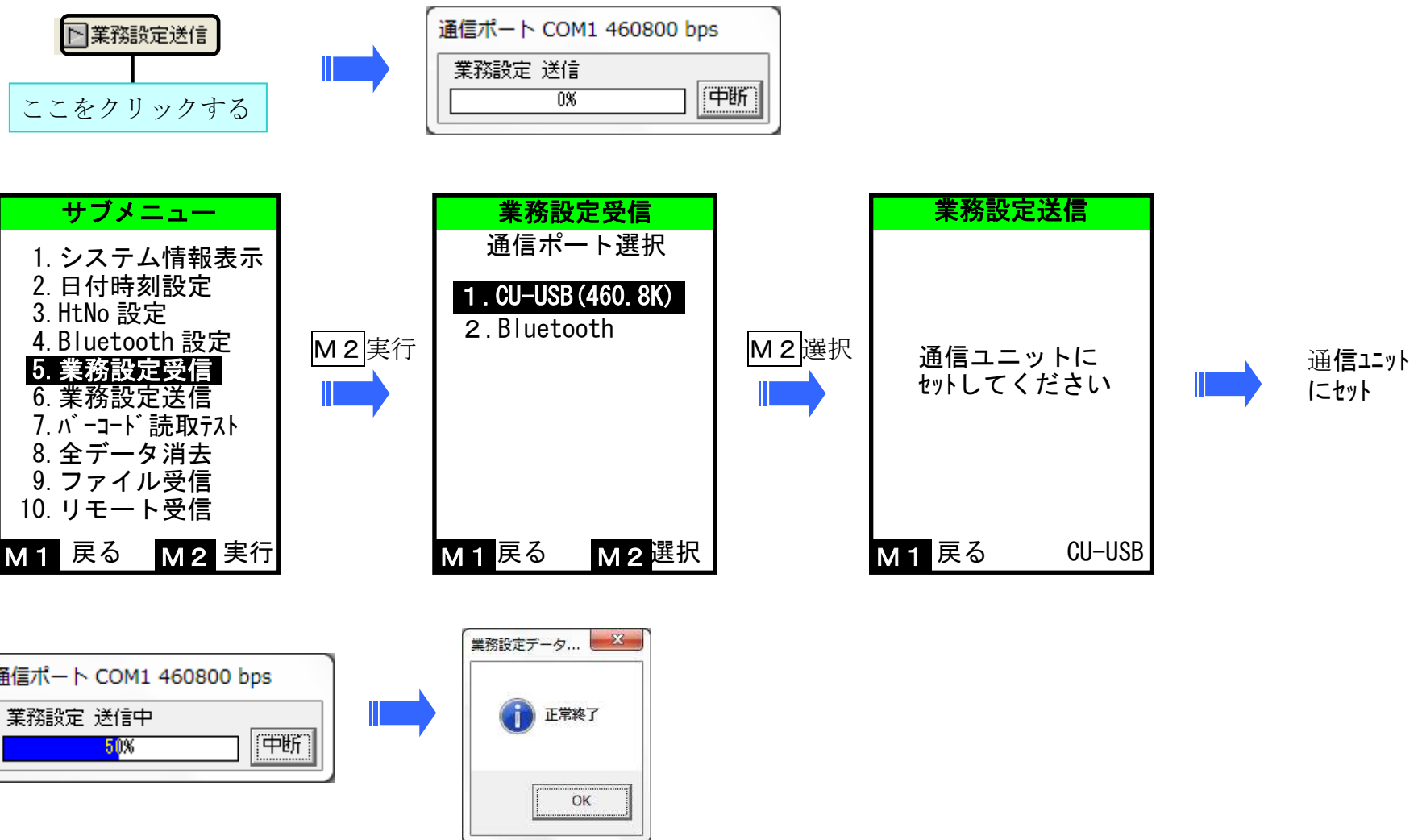
保存ファイル A.TXT 保存フィールド数 8
保存条件 検査OK/NG

1	HtNo		4	桁
2	指定AIコードのデータ	AI 01	14	桁
3	読取日付		6	桁
4	比較日付		6	桁
5	OK/NG		2	桁
6	検査数		4	桁
7	日付A(YYYY/MM/DD)		10	桁
8	時刻A(HH:MM:SS)		8	桁

2-3 業務設定更新

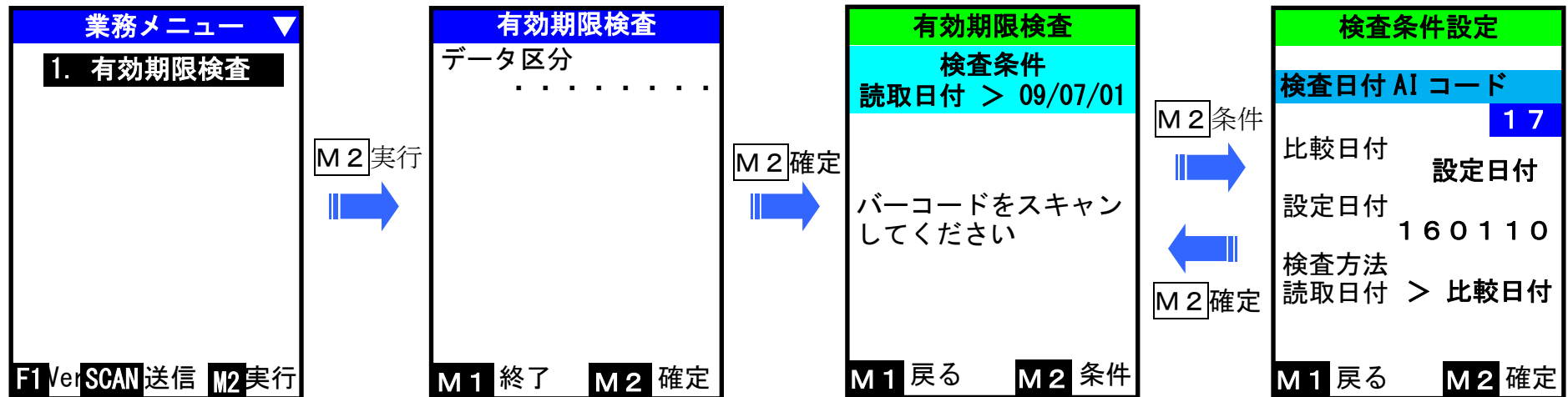
[業務設定送信] ボタンをクリックして、「UCC/EAN-128 日付検査プログラム」を設定した業務設定を送信して更新します。

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 **業務設定送信** 業務設定受信 閉じる 終了



3 プログラム実行

バーコードのUCC/EAN-128データフォーマットから設定したAIコードの年月日を抽出して、検査方法に従って日付検査してOK/NGを表示します。



検査OK 検査NG

バーコードから読取った日付を表示

OK/NG 表示時間経過するか、何かキー入力するとバーコード読取画面に戻ります。

有効期限検査
検査条件
読取日付 > 16/01/10

16/01/15

OK

有効期限検査
検査条件
読取日付 > 16/01/10

16/01/01

NG

検査日付 AIコード: 11~19を◀と▶キーで選択します。
比較日付: 「システム日付」またはを「設定日付」を◀と▶キーで選択します。
設定日付: 比較日付に設定日付を設定した場合に検査する日付を設定します。
検査方法: 「読取日付 < 比較日付」, 「読取日付 ≤ 比較日付」, 「読取日付 = 比較日付」, 「読取日付 ≥ 比較日付」, 「読取日付 > 比較日付」を◀と▶キーで選択します。
M2: 入力を確定して設定します。
M1: 前画面に戻ります。

●入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9，CODE 9 3，CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	フォーマットが「カンマ区切り」，「スペース区切り」，「タブ記号区切り」，「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。

4 保存データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したいデータの業務を▲と▼キーで選択して、**SCAN** キーを押して送信します。

業務メニュー ▼

▶ 1. 有効期限検査

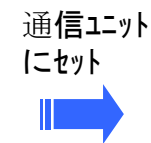
F1 Ver **SCAN** 送信 M2 実行



有効期限検査>送信

通信ユニットに
セットしてください

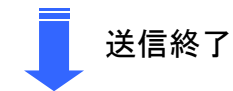
M 1 戻る CU-USB



有効期限検査>送信

送信中
00001

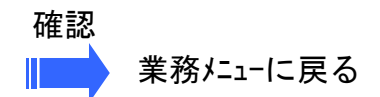
M 1 中断 CU-USB



有効期限検査>送信

送信終了

M 2 確認



未送信の保存データがあると
業務メニューに▶を表示します。